

令和6年度

**「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」**

大阪市立中大江幼稚園

令和7年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 幼小交流や地域の未就園児との交流を重ねる度に、子ども達が進んで小学生や未就園児に関わる姿が見られた。今年度は、さらに園内の異年齢活動や地域の方など様々な人との交流の機会をとらえ、子ども達が人と関わる楽しさを経験できる保育の充実を目指す。
- 昨年度も、「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」というアンケート項目について、高い肯定的回答を得られた。子ども達は運動的な遊びに意欲的に取り組むようになってきた。今年度も引き続き幼稚園の生活や遊びの中で、進んで体を動かす楽しさを感じられる保育の充実や家庭との連携に努め、小学校以降の学びの基礎を育む。
- 今年度は家庭と連携して子どもたちの食への興味関心を高める中で自分の基本的な生活習慣の自立につながるような保育の充実を目指す。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
 - ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
 - ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
 - ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
 - ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
 - ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。
 - ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
- ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
- ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
- ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度掲げた年度目標については、保護者アンケートの肯定的な回答の結果から、総合的に達成ができたと評価できる。来年度も、更なる保育の充実に努め、保護者アンケートの「そう思う」の回答数を高めたい。

幼小交流や未就園児との交流では自信をもって行動する態度や、あいさつウィークでは地域の方にも元気にあいさつをする態度が育ってきた。来年度は、自ら進んで身近な人とのかかわる楽しさを感じ、自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受け止めたりする経験の充実を図りたい。

季節や発達段階に応じた運動遊びの環境を工夫したことで、子ども達は運動的な遊びに意欲的に取り組むようになってきた。来年度は、子どもたち自身が安全を意識しながら存分に体を動かすことのできる環境の工夫を図りたい。

保健指導により、子ども達の食への興味や関心が高まったので、幼稚園の取り組みの発信の工夫を行い、引き続き家庭との連携に努めたい。

大阪市立中大江幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。 ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」 ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して思いやりの心を育てていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 一人一人の子どもが、安全・安心に幼稚園で過ごす環境の工夫をする。		B
指標 ・安全指導を、学期に1回以上実施する。 ・避難訓練を、年8回以上実施する。 ・園内委員会を、学期に1回以上実施する。		
取組内容②【2 豊かな心の育成】 様々な交流活動を工夫し、身近な人への親しみを深める。		B
指標 ・幼小交流活動を小学校各学年と1回以上行う。 ・異年齢活動を、月1回以上行う。 ・地域交流活動を、年5回行う。 ・あいさつウィークを、年8回行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①		
<ul style="list-style-type: none">・保護者アンケートでは、Aよくあてはまる81%、Bだいたいあてはまる19%であった。・東警察署による安全指導を2回（交通安全・防犯指導）受け、安全への意識が高まった。また、廊下を歩くことを意識できるように、子どもの実態に合わせた視覚支援のポスターや人形を子どもたちと作成し、各階に設置したことで廊下を歩く意識が継続した。・避難訓練（火災及び地震5回・不審者1回・幼小合同1回、預かり保育時1回）計8回実施、津波を想定した幼小合同避難訓練では、小学生と一緒に建物の4階までの避難を経験した。また、1月17日には阪神淡路大震災の話を聞いたり、地震の紙芝居を見たりしたことで、自分の身の守り方や命の大切さを感じる機会になった。・職員会議での園内委員会の実施や、大阪市の巡回支援や中央区見守りサポーターとの連携により、子ども一人一人の実態に応じた支援の在り方を教職員で共有し合ったことで、保育の充実に繋がった。		

②

- ・保護者アンケートでは、A よくあてはまる 71%、B だいたいあてはまる 29%であった。
- ・幼小交流年間計画に基づき、交流活動を計8回（6年生との園庭遊び、4年生による絵本読み聞かせ、6年生との地震・津波の合同避難訓練、2年生のおもちゃパーティー、1年生との作品展見学交流、5年生との凧揚げ、3年生との音楽交流、1年生の給食参観・授業参観）行い、小学校への親しみや憧れを抱き、年長児にとっては進学への期待や安心にも繋がる機会となった。
- ・異年齢活動では、日常的に遊びの場を共有したり、運動会では異年齢チームで玉入れをしたり、生活発表会の劇遊びなどを見合ったりしたことで、年少児・年中児は年上の友達への憧れの気持ちを持ち、年長児は年下の友達への思いやりの気持ちや、年長児としての自覚をもつことに繋がった。
- ・地域交流活動を計6回（地域の方との芝生の苗植え、中央区役所・大阪城公園事務所・地域ボランティアとの種花事業、育てた花苗を中大江公園愛護会へ送る活動、東警察署の交通安全指導、島之内図書館のボランティアによる絵本の読み聞かせ、東警察署の防犯指導）行い、地域の方との交流を深めた。
- ・あいさつウィークを5月から計10回行った。年長児が中心となってあいさつ当番を行い、年少児、年中児もあいさつウィークにより興味や関心をもてるよう毎月ポスターや当番表を作成し、11月からは年中児も一緒に当番活動を行った。異年齢で当番活動をすることで、年長児は年中児の手本となることを意識し、年中児は年長児と一緒にいることで安心してあいさつする姿に繋がった。

次年度への改善点

①

- ・引き続き、実態に応じた視覚支援を子どもと共に作成し、子どもたち自身が安全を意識できるようにする。また、外国にルーツのある子どもには翻訳機や視覚的教材などを活用しながら、分かりやすく伝える。
- ・避難訓練を計画的に行い、絵本や紙芝居、写真などを活用し、より真剣に向き合えるよう取り組む。
- ・関係諸機関と連携し、園内委員会の充実を図る。

②

- ・引き続き打合せや反省会を行い、幼小の教員が連携し合いながら実態に応じた交流を行う。
- ・日頃の好きな遊びや誕生会などの行事を通して、異年齢交流を積極的に保育へ取り入れる。
- ・今後も地域の方との交流を深め、地域と連携した保育を行えるよう努める。
- ・引き続きあいさつ当番を行い、あいさつを通して心が通うことや、身近な人への親しみを感じる機会に繋げる。

大阪市立中大江幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校園の年度目標 ○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。 ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし主体的に遊んでいますか」 ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」 ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムに基づき、一人一人が主体的に遊びを楽しむ環境構成や援助の工夫をする。		B
指標 ・日案・週案・指導計画・教育課程などの作成に、就学前教育カリキュラムを月1回以上活用する。 ・子どもの育ちを保護者や地域へ発信する。 (学期ごとの保護者会・毎月のクラスだより・週1回以上ホームページの更新)		
取組内容②【4 健やかな体の育成】 遊びを通して、体を動かす楽しさを味わえるような活動を工夫する。		B
指標 ・体を動かす楽しさを感じられる保育環境の見直しや検討会を、学期に1回以上行う。 ・あるこうウィークを、年8回行う。		
取組内容③【4 健やかな体の育成】 就学前教育カリキュラムに基づき、食育指導の工夫を行う。		B
指標 ・食育に関する保健指導を、年間2回以上行う。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① ・保護者アンケートでは、Aよくあてはまる68%、Bだいたいあてはまる29%あまりあてはまらない3%であった ・6月に大阪市立幼稚園教育研究会第3ブロックの研究保育に取り組んだことや、クラスだより「なかおおえキッズ」の作成の際に、就学前教育カリキュラムを活用したことで「知・徳・体」のバランスが取れた保育について教職員で共通理解しながら日々の保育実践ができた。 ・学期毎の保護者会やホームページで、子どもの姿を通して遊びの中の学びを発信することができた。		

②

- ・保護者アンケートでは、Aよくあてはまる81%、Bだいたいあてはまる19%であった。
- ・子どもの実態から、体を動かす楽しさを感じられる保育について検討会を行い、教職員間で共通理解して環境構成をした。1学期は、子どもの実態から手作り遊具（ハードル、ジャンプ台、トンネル等）を作成したり、必要な運動遊具を購入したりしたことで、多様な動きを楽しむ姿に繋がった。2学期は、運動会での経験が自信となり、友達と一緒に体を動かして遊ぶことをより楽しむ姿が見られるようになった。3学期は、ボール遊びの的やゴールをつくるなど、遊びの環境を工夫したことで、寒さに負けず意欲的に体を動かす姿が見られた。また、体操の年間計画を作成し、毎月誕生会では保護者も一緒に体操をすることで、体を動かす楽しさを共有することができた。
- ・5月から計10回（5～3月）、あるこうウィークを行った。あるこうウィークの期間中に、万歩計を貸出した日に押印するスタンプカードを活用したり、保育の中で万歩計を使用したりしたことで、あるこうウィークへの意識が高まった。また、子どもが作成したポスターの掲示をしたり、園だよりやホームページを活用したりして、保護者への啓発を行った。

③

- ・保護者アンケートでは、Aよくあてはまる61%、Bだいたいあてはまる36%、Cあまりあてはまらない3%であった。
- ・7月に「3色栄養」についての保健指導を行った。食べ物は働きにより赤・黄・緑の3つのグループに分けることができることやそれぞれの役割を知らせた。指導後は保育室に3色栄養の表や保健室前に食品を3つのグループに分けるクイズを掲示した。「今日のお弁当には何色が入っているかな」と話したり、クイズに挑戦したりする姿が見られ興味や関心をもっている様子うかがえた。
- ・10月から食べ物の本来の姿や働きを知ることさらに興味や関心が広がるように弁当の時間を活用し「たべものくいず」を始めた。クイズは保育室に掲示しいつでも挑戦できるようにした。指導の際には実物の食べ物を見せたり視覚的教材を活用し工夫をしたりしたことで、毎回子ども達はクイズを楽しみにするようになった。また、その都度クイズの内容をホームページに掲載したことで、家庭でクイズについて話したりしているとの声も聞かれた。
- ・12月は、「排泄」についての保健指導を行った。見たり触ったりする視覚的な教材を使用したことで子どもたちが興味や関心をもっている様子が見られた。指導後は、指導に使用した教材を保健室前に掲示した。また、冬休みには「せいかつカレンダー」を実施し、保護者からのコメントでは「野菜を食べるように声掛けを行った」「（硬い便のとき）お水をしっかり飲まないでだめだねと子どもが言っていて驚いた」などの声が聞かれた。
- ・保健指導の内容やクイズの内容は保健だよりやホームページで保護者に啓発を行った。また、9月に中央区で開催された「ゆめちゅうおうEXPO第33回中央区健康展」で幼稚園の食育の取り組みについてのポスターを作成し展示した。幼稚園での食育の様子を地域の方に知っていただく良い機会になった。ポスターは2学期の始業式を活用し、保護者の方にも見ていただいた。

次年度への改善点

①

- ・就学前教育カリキュラムについての研修会に積極的に参加し、遊びの中の学びのプロセスを教職員で共通理解し保育の充実を図る。
- ・保育内容の可視化の工夫に努め、保護者や地域との連携を図る。

②

- ・さらに体を動かす楽しさを感じられるように、子どもの興味や関心を捉えて保育環境の見直しや検討会を行い、保育の充実に努める。

③

- ・担任と連携しながら食への興味や関心をもてるように弁当の時間の活用や、指導の工夫を行う。

大阪市立中大江幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。 ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研修会に参加したり園内研修を計画的に行ったりして、教職員の学び合いに努める。	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・参加した研修の伝達を、1人1回行う。 ・園内研修を、年3回以上行う。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、Aよくあてはまる78%、Bだいたいあてはまる20%、Cあまりあてはまらない2%であった。 ・教職員が参加した研修資料の内容を回覧したり、伝達し合ったりして学んだことを日々の保育に活かした。 ・園内研修5回・0JT3回行い、互いの保育を見合うことで学びや気づきを得ることができた。 ・大阪市立幼稚園教育研究会3ブロックの研究保育に取り組み、遊びの中で、自ら体を動かす楽しさを味わう幼児の姿や、教師の教育的意図をもった働きかけについて学び合った。
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中の育ちを意識した質の高い保育を目指し、今後も、研修会に積極的に参加したり、園内研修を計画的に行ったりして、教員同士で学び合い研鑽をつんでいく。

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立中大江校園 学校協議会

1 総括についての評価

- ・ 小学校・幼稚園共に、現状や課題から設定した目標に向けて、教育活動の工夫や、教員の指導力の向上に努めていることが理解できた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

小学校

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84.1%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を42.1%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62%以上にする。

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

○ タブレット端末の習熟に関して、各学年ごとにつけていくスキルや知識を系統立てた年間計画を立てて指導をしていく必要がある。

幼稚園

【安全・安心な教育の推進】

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「子どもは、安心して幼稚園で過ごしていますか」
- ・「幼稚園は、いろいろな人とのかかわりを通して、思いやりの心を育てていますか」

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「子どもは、幼稚園生活の中で様々なことに心を動かし、主体的に遊んでいますか」
- ・「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」
- ・「幼稚園は、基本的な生活習慣が身につくよう努めていますか」

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和6年度、本園アンケート調査で、次の項目について、肯定的な回答をする保護者の割合を80%以上にする。

- ・「幼稚園は、教員の資質向上に努めていますか」

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。

3 今後の学校園の運営についての意見

○ICT教育が、児童の実態に応じたものであること、質の高い教育や、教職員の負担軽減につながることを期待している。